

ヤマトリカブト *Aconitum japonicum* Thunb.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 14。日本列島で多様に分化しているトリカブト属 4 倍体種の中の 1 つで、愛知県は分布域の西限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は下部が直立し、上部は曲がって多少とも分枝し、高さ 80~180cm になる。根は紡錘形に肥厚する。茎の中部につく葉は円心形、長さ 7~15cm、幅 8.5~19cm、基部は広い心形か切形、またはくさび状となり、3~5 深裂し、裂片には披針形または卵状披針形の欠刻状鋸歯がある。花期は 8~9 月、総状花序を茎の先端と葉腋につける。花は長さ 35~40mm、花柄には曲がった毛があり、花の外面や内面の縁に近い部分にも毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (村松正雄 15948, 1994-9-4)、4 津具 (芹沢 67412, 1993-9-3)。

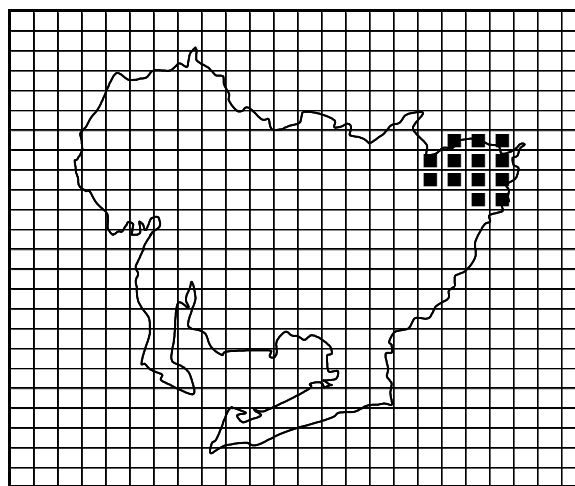
【国内の分布】

本州 (東北地方南部~中部地方)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は沢沿いの落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数は極めて少ない。多少攪乱された場所にも生育しており、現在のところ特に減少しているわけではないが、牧場化などの大規模な改変があれば消滅する。

【保全上の留意点】

茶臼山周辺は、愛知県の中では温帯性の植物が集中して生育している場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、これ以上の開発は避けるべきである。とりわけ、沢の源頭部に僅かに残る自然林は、注意して保全する必要がある。

【特記事項】

トリカブト類は有毒植物として有名である。愛知県のトリカブトは大部分が花柄に毛のないカワチブシ *A. grossedentatum* (Nakai) Nakai で、ヤマトリカブト型のものはずかしくない。毛の量には変化があり、今後更に詳細な検討が必要である。

【関連文献】

平草 II p.67, 平新版 2 p.128, SOS 新版 p.19,21.